

トヨタネ研究農場の「今」をお知らせ！ 圃場の写真と、環境データ・管理方法も合わせてご覧ください！


① 圃場 ハウス ② 試験内容


③ 開始日 ④ 終了予定

① 第4 A ② ココバッグラインナップ比較試験 ③ 2021/8/30 ④ 7月

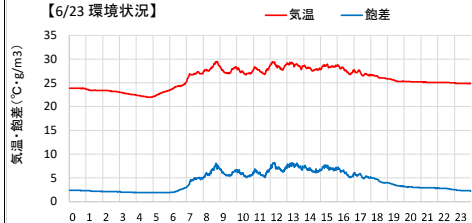
品目	圃場写真①	圃場写真②
直近の環境データ・管理方法(晴天日) ※特に表記のないものは 設定と実測の温度を示しています		今月の状況 と 今後の管理

大玉トマト





【6/23 環境状況】



3年目は終盤で尻腐れがやや出やすい傾向があり  
やはり3年目安で交換が無難と思われます。  
年間を通じて日射比例灌水で管理していますが、6-7月  
は遮光をほぼ終日行うので灌水量が不足気味にならない  
ように注意が必要です。  
次作はレギュラーバッグのみ4年目の試験を行います。  
定植は例年通り8月下旬を予定しています。


① 第4 B ② ミニトマト品種比較試験


③ 2021/7/26 ④ 6月

① 第4 C ② 大玉トマト品種比較試験

③ 2021/7/26 ④ 2022/6/30

ミニトマト







※小鈴クイーン

5/20摘芯済。32-33段収穫中。  
摘芯前の開花段数は35段なので、1-2段残し  
て栽培終了の見込みです。  
給液はEC1.8前後、排液率は20%を目安に  
給液しています。  
次作の定植は7月下旬予定です。

大玉トマト






※麗旬


5/20に摘芯し、2.3段を残して栽培終了です。  
最終開花段は26-27段でした。  
給液はEC1.8前後で、  
1日2000cc/株(晴天日)。  
排液率は20%程度です。  
品種によって黄化玉や尻腐れが  
多く見られました。  
次作は7/下旬定植、20品種栽培予定です。

① 第4 D ② アールスメロン品種比較試験 ③ 2022/5/13 ④ 8月

① 第4 E ② ベンチ・品種比較試験 ③ 2021/9/17 ④ 6月

アールスメロン







※夏系15

交配を6/5~10、摘芯を6/7に行い、現在は  
一次ネットが出そろいました。  
給液ECは1.6、給液量は2000cc/株。  
排液ECは1.5前後、排液率は30%を目安に  
しています。  
生育は順調です。  
今後は給液量を増やして玉肥大させていき  
ます。  
7月下旬に収穫予定です。

イチゴ





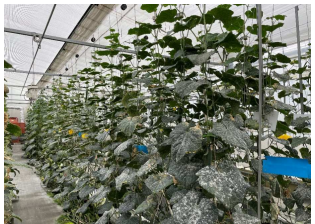
※紅ほっぺ

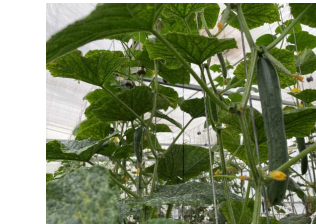
6月末で栽培終了。現在は開花もなく、  
わずかに果実が残っている程度です。  
次作はクラン温度制御の効果確認のた  
め、  
一部を9月上旬に定植して花芽分化の違いを  
確認していきます。(紅ほっぺ)  
その他の試験区は種子繁殖生品種の品種  
比較試験も含めて9月下旬に定植予定です。

① 第4 J ② 試作肥料・生育ムラ比較試験 ③ 2021/10/5 ④ 6月

① 第4 I ② 排液リサイクルシステム実証試験 ③ 2021/8/21 ④ 2022/6/30


キュウリ






栽培終了。収穫量は約25t / 1反。  
年明け以降ダニやアザミウマへの対処が遅  
れ、  
生育不良になったことが収量減の原因。  
次作は作型や仕立て方の検討として、  
【摘芯栽培】【つり上げ栽培】【つる下ろし栽培】  
の3パターンで試験を行う予定です。  
10月上旬定植、一部途中で植え替えを  
行います。

大玉トマト  
ミニトマト







▲大玉  
▼ミニ

5/10に摘芯し、1.2段を残し栽培終了です。  
給液ECは1.8、排液ECは6.0、  
排液率は20%です。  
大玉は目標収量の50%、  
ミニは目標収量の80%でした。  
糖度は目標を超えており、最終着地は  
大玉で8.2、ミニで9.4でした。  
次作は給液管理を改善して再試験します。



① 第2 露地 ②

③ ④

 <p>緑肥</p>	
<p>次作準備中</p>	<p>次作のプロックリー品種比較試験に向けて、緑肥作物(クロタリヤ)を播種しました。排水性・透水性の改善を目的としています。</p>

① 第3 M ② ミニ胡瓜栽培展示

③ 2022/6/25 ④ 9月



 <p>ミニ胡瓜</p>	 <p>◀ エンドウを栽培したココバッグを</p>
	<p>6月25日定植。ココバッグ50cm株間。給液EC1.6 チューブ=ネタヒュムストリームライン60-10</p>

① 第6 露地 ② スイートコーン品種比較試験 ③ 2022/3/15~ ④ 7月

 <p>スイートコーン</p>	 <p>◀ 早生 ▶ 晩生</p>
<p>計2作型 早生作 3/15播種 6/22収穫 晩生作 4/11播種 絹糸発生、6/8追肥 ※点滴養液=元肥追肥なしで点滴チューブを用いて施肥。肥料3割減。</p>	<p>早生作は、6/22に収穫・調査を行いました。平均427gとなりました。先端不稔や2番果の大きさに差がみられました。 晩生作は生育にバラつきが見られますが、6/8に2回目の追肥を行い、交配中~終了です。同時に開始した点滴養液栽培は黄化がみられ、樹も低く細くなっています。</p>

① 第7 TSK ② 海外野菜展示


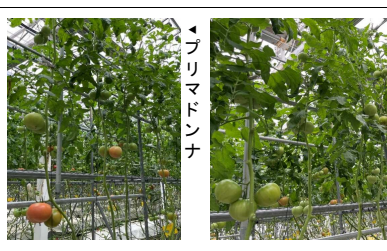
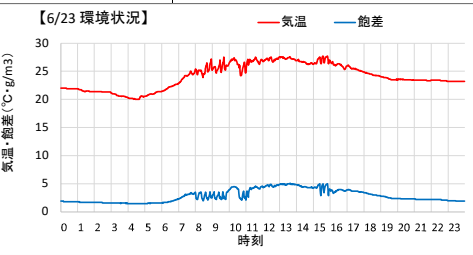
③ 2022/9~ ④

 <p>海外野菜</p>	 <p>◀ 昨年の様子 (スイスチャイ)</p>
<p>次作準備中</p>	<p>昨年同様、海外野菜の展示を行う予定です。品目は検討中です。</p>

① 第7 露地 ② 秋冬作物新品目検討試験 ③ 2021/11/26 ④ 6月

 <p>タマネギ</p>	
	<p>6月中旬に収穫しました。品種はケルたま®です。産直に出荷し、機能性野菜として販売を試みています。</p>

① 第8 ② 高精度栽培収益確認試験 ③ 2021/8/23 ④ 7月

 <p>大玉トマト</p>	 <p>◀ プリマドンナ ▶ 麗旬</p>
 <p>【6/23 環境状況】 — 気温 — 飽差</p>	<p>高精度栽培用の単肥組成実証試験中。品種は麗旬x根美S。冬は糖度7~8度程度まで上昇。現在は終盤で尻腐れ対策もあり給液ECを下げ、遮光も積極的に行うため、糖度5.5~6.0度程度です。 試験成果としては試作処方の方が収量・品質・糖度とも良い成績でした。次作はこの処方を全面的に使って、終盤の糖度維持と尻腐れ防止をどのように</p>